市民と行政の真のパートナーシップ実現に向けて（中間報告）

～沖縄玉水（ウチナータマミジ）ネットワークの取り組み～

沖縄総合事務局開発建設部　河川課　調査係長　新城　晴伸

１．はじめに（「沖縄玉水（ウチナータマミジ）ネットワーク」とは）

我が国における公共事業を取り巻く環境は生活水準の向上、財政悪化などの社会的要因により大きく変化しており、平成９年の「河川法改正」や平成１２年の「河川における市民団体等との連携方策のあり方について（河川審議会答申）」などに示される通り、治水事業においても事業の計画・実施・管理それぞれの段階で、地域住民への積極的な情報提供や説明責任、合意形成及び市民の参加・連携・協働が求められている。　沖縄県は島嶼県で且つ島内面積も小さいことから河川延長は短く、また、特に本島中南部は市街化が進み都市部を流れる河川では、「水路」のような体をなしていることで、周辺住民の河川に対する関心はとても低いのが現状である。　そこで、市民が河川に関心を持ち、河川の計画から管理まで住民参加を実践するにはどのようにしていけば良いかなどを解決するため、今回、特に河川行政側から県内の主要な河川愛護団体（以下、市民団体）に声掛けし、市民団体と行政機関で構成する「沖縄玉水（ウチナータマミジ）ネットワーク」を平成１４年７月に設立・活動を始めたところであるが、本稿はこれまでの活動内容及びその成果等について中間報告するものである。

２．「沖縄玉水ネットワーク」の構成及び活動について

「沖縄玉水ネットワーク」の活動方針並びに構成メンバーを表－１及び以下に示す。

構成メンバーを募集するにあたっては、定期的に会合を持つという観点から移動などの不便性を考慮し、当面、沖縄本島内で活動中の１３の市民団体とし、今後メンバーの拡大に努めていくことでスタートする事とした。

また、当ネットワーク事務局については活動が定着する迄の当面の間、行政機関が受け持つ事となった。

会合は原則公開とし、特にマスコミに記者発表する事で広く会合内容を周知していく事、また、当面の活動方針として以下の２点で活動していく事で意見の集約が図れた。

より良い川づくり、川づくりを通した地域づくりを目指して以下の活動を行う。

①構成団体の活動状況、河川に関する情報発信を行う。

②構成団体の活動状況の報告会や勉強会・シンポジウムなどを開催する。

表－１「沖縄玉水ネットワーク」の構成ﾒﾝﾊﾞｰ

河川名	団　体　名
奥　川	奥川にアユを蘇生させる会
源河川	源河川にアユを呼び戻す会
幸地川	幸地川を蘇生させる会
天願川	具志川市水と緑を考える会
比謝川	比謝川をそ生させる会
比謝川	ＹＯＵ・遊・比謝川実行委員会
白比川	白比川の自然を残す会
牧港川	牧港川をきれいにする市民の会
安謝川	安謝川をきれいにする住民の会
久茂地川	久茂地川フェスティバル実行委員会
国場川	国場川に清流をとり戻す会
長堂川	長堂川に清流をとりもどし山川の生活環境をよくする会
報得川	報得川と美海の会
事務局	沖縄総合事務局開発建設部　河川課
	沖縄県土木建築部　河川課
	沖縄県企業局　配水管理課

３．これまでの活動状況

活動内容としては、平成１４年７月にネットワークを設立した事から始まり、定期的な会合や「フォーラム」などを開催している。以下にこれまでの活動の概要を示す。

３．１「沖縄の水と川を考えるフォーラム」の開催

「沖縄玉水ネットワーク」の発足を記念し、沖縄の水と川を取り巻く様々な課題について議論するため「沖縄の水と川を考えるフォーラム」を平成１４年９月１６日（月）具志川市立川崎小学校で開催した。

当日は、市民団体の会員を始め、各行政関係者、学校の先生、川づくりに携わった施工業者など約１４０人が参加し、参加者全員が６分科会に分かれて活発な意見・情報交換や提案などがなされた。以下、「フォーラム」での議論のテーマ及び主な指摘事項を表－２に示す。

全体会議状況

第６分科会会議状況

表－２　「フォーラム」での議論テーマ及び主な指摘事項

各分科会での議論のテーマ
○第１分科会　「水利用のあり方」～本島中南部の自助努力～ ○第２分科会　「河川の浄化対策」～特に畜舎排水について～ ○第３分科会　「魅力のある河川愛護活動の取り組み」～活動を継続するために～ ○第４分科会　「川での総合学習」 ○第５分科会　「市民グループと河川のあり方」～市民と行政の協働について～ ○第６分科会　「魅力ある川づくりと住民参加」
各分科会での主な指摘事項（キーワード）
◆水のリサイクルの徹底 ◆行政の情報公開、積極的支援が不可欠 ◆行政の横断的システムの構築 ◆河川環境の改善（特に水質・水辺に近づけるなどの観点） ◆市民団体と学校との連携（活動の継続・拡大、後継者育成） ◆市民団体の役割増加（＝市民と行政の調整役） ◆市民と行政間での役割分担の整理

３．２　「川づくり勉強会」の開催

「沖縄玉水ネットワーク」構成団体の情報交換を目的に、「多自然型川づくり事例紹介」や「法制度説明」、「その他情報」などについて、市民団体及び行政の双方から情報を出し合い意見交換を行った。

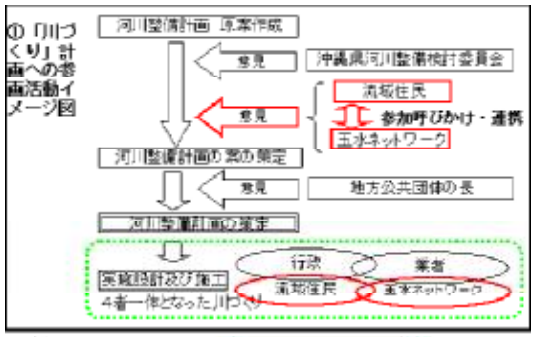
特に、各市民団体の活動内容や構成も様々であり、一定の情報の共有が図れたと考えている。また、河川整備基金などの助成制度を知らなかった団体も有り、今後ともこのような行政側の情報を聞かせて欲しいなどの声があった。

更に河川整備を行っている川について、具体的に提案を行っていきたいとの意見もあり、現在、実施設計中の「小波津川」を対象に現地検討会を行っていく事を確認した。

４．今後の活動内容

「多くの課題とするテーマ」があるが、「ネットワーク」の当面の活動内容として、以下のテーマに絞り込み活動していく事を確認している。

①「川づくり」計画への積極的な参画
②「川の歴史記録」活動の呼びかけと支援（「川の聞取り調査手引書」の作成・配布）
③畜産排水対策に関する勉強会
④多自然型川づくりに関する講演会開催
⑤ホームページでの情報発信



＜「川づくり」計画への参画活動内容＞

○河川整備計画策定段階に、「ネットワーク」から「流域住民」へ、参加呼びかけを行うと共に、流域住民と連携し意見を提出。

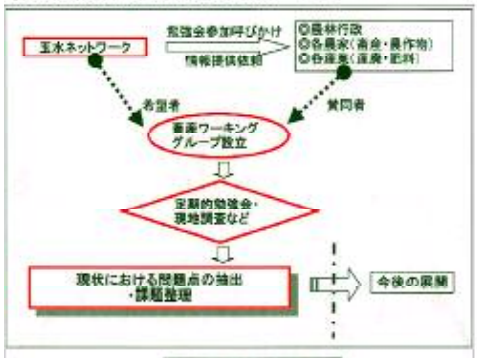
○河川整備計画策定以降の実施設計及び施工段階まで踏込んだ「川づくり」参画を目指す。

＜「川の歴史記録」活動内容＞

○「ネットワーク」と「学校機関」が連携し、「川の聞取り調査手引書」を作成・配布。

○生徒自ら身近な方々に「聞取り調査」を実施すると共に、「文献・既往調査成果」と併せて編集取りまとめを行い、今後の川づくりへ反映。

③畜産排水対策に関する勉強会イメージ図



＜畜産排水対策に関する勉強会活動内容＞

○河川環境悪化の一要因である水質悪化に注目し、特に「畜産排水」をテーマに勉強会を行う。

○勉強会は「ネットワーク」と「農林関係者」を対象とし、勉強会や現地調査などから問題点抽出・課題整理を行っていき、今後の展開を目指す。

５．これまでの活動の評価

これまで「沖縄玉水ネットワーク」として１年間活動を行って来ているが、市民団体側の意見を集約すると以下のとおりであった。

市民団体側からの主な意見

良かった点	悪かった点
○行政側からの情報発信は非常に有用 ○市民団体相互の情報交換が図れた （特に活動方法や活動資金などに関して） ○市民団体と行政が一体で取組む事が重要 （市民団体では活動に限界、行政施策に反映していく事が重要）	◆幅広い行政関係者の参加 （特に市町村関係者の参加を望む） ◆会合中心ではなく、現地調査などを主に ◆活動に「楽しみ」を持たせる視点も大事 ◆活動内容により参加区分けが必要 （全体・個別）

評価としては、活動内容の改善点（手法など）は幾つかあるものの、「ネットワーク」活動そのものの意義は各市民団体共に認めており、一定の評価を得ることが出来たものと考えている。また、時期尚早なところはあるが、現段階までの活動内容の評価及び成果としては以下のとおりと考えている。

活動の評価及び成果

活動の評価		成　　果
○今後とも市民団体と行政一体となった活動の継続が図れる。	⇒	☆上記「今後の活動内容」を実施していく事で河川整備に反映が可能。
○市民団体と行政との情報共有が図れた。	⇒	☆市民団体自ら積極的に広報。また、市民団体からの情報提供が増加した。
○市民団体の拡大に繋がった。	⇒	☆今年８月に「石川川（イヒィチャー）蘇生させる会」が新たに発足。現在「ネットワーク」加入に向け準備中。
○行政職員の意識向上が図れた。 ○行政職員のネットワーク拡大に繋がった。	⇒	☆市民団体を通じての「市民意識」の把握や「他行政機関（学校・市町村）」とのネットワークは今後益々重要。

６．今後の課題

「沖縄玉水ネットワーク」は沖縄の水と川に関する課題解決に向けて、本格的に市民団体と行政が協働で取り組む第一歩となるものであり、今後も地道に歩を進めていく事が重要であると考えているが、水や川に関する事に留まらず「海岸」などを含めた流域全体のネットワーク拡大を模索していきたい。また、当然ながら、この「ネットワーク」の活動を通じて、どのように市民に浸透が図れたかなどを様々な角度からの分析・検証も必要であると認識している。そして、この活動を足掛りに「市民と行政の真のパートナーシップ構築」が最終目標である。